

さいたま市立大谷場中学校 各教科の内容と評価観点 [数 学]

教科の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・途中までであっても、考え続けようとする生徒 ・課題を追求したことに成就感を味わえる生徒 ・試行錯誤しながら、数学的活動を楽しむことができる生徒 ・自らじっくり考え、学び方や数学的な技能を身につけている生徒 ・数学で学んだことを積極的に活用し、思考をより正確に、よりの確に、より能率的に行うことができ、社会や文化の発展に貢献できる生徒
-------	---

2 年	項目	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の重点	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能が身に付いているか (例 「変化の割合」「切片」、図形の根拠となることから等を理解しているか) ・既習事項を使って問題の解決にあたっているか ・基本的な計算ができたり、関数、図形についての問題が解けたりできるか (例 角度を求めたり関数のグラフがかけたりできるか) 	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な解決方法を考えているか (例 連立方程式を加減法や代入法で解けるか) ・問題解決の過程をとらえた表現ができているか ・既習事項を組み合わせることで応用問題を解決できるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加しているか (工夫した発表、内容のある発言や質問) ・工夫したノートづくりをしているか ・進んで問題集や自主学習ノートに取り組んでいるか ・振り返りカードへの取り組み 	

	単元・教材・題材 等	学習目標・学習内容・学習活動 等	評価の方法
1 学 期	1章 式の計算 ・式の計算 ・文字式の利用 2章 連立方程式 ・連立方程式 ・連立方程式の利用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的な事象の中に数量の関係を見だし、それを文字を用いて式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の四則計算ができるようにする。 ○ 連立二元一次方程式について理解し、それをを用いて考察することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業観察 (発表、発言、質問の内容) ○ノートの作り方の工夫 ○ノート観察 (授業中での解法や考え方) ○問題集、宿題への取り組み方、工夫 ○定期テスト ○小テスト ○振り返りカード

2 学 期	<p>3章 一次関数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次関数 ・一次関数と方程式 ・一次関数の利用 <p>4章 図形の調べ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平行と合同 ・証明 <p>5章 図形の性質と証明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角形 ・四角形 	<p>○ 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。</p> <p>○ 観察や、操作や実験などの活動を通して、基本的な平面図形の性質を見だし、平行線の性質を基にしてそれらを確認することができるようにする。</p> <p>○ 図形の合同について理解し図形についての見方を深めるとともに、図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ、論理的に考察し表現する能力を養う。</p>	<p>○授業観察 (発表、発言、質問の内容)</p> <p>○ノートの作り方の工夫</p> <p>○ノート観察 (授業中での解法や考え方)</p> <p>○問題集、宿題への取り組み方、工夫</p> <p>○定期テスト</p> <p>○小テスト</p> <p>○振り返りカード</p>
3 学 期	<p>6章 場合の数と確率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場合の数と確率 <p>7章 箱ひげ図とデータの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱ひげ図 <p>1年間のまとめ</p>	<p>○ 不確定な事象についての観察や実験などの活動を通して、確率について理解し、それをを用いて考察し表現することができるようにする。</p> <p>○ 日常の事象を題材として取り上げ、問題を解決するために必要なデータを収集し、コンピュータなどを利用してデータを整理し、四分位範囲を求めたり箱ひげ図で表したりして複数の集団のデータの傾向を比較して読み取り、その結果を基に説明するという一連の活動を経験できるようにする。</p>	<p>○授業観察 (発表、発言、質問の内容)</p> <p>○ノートの作り方の工夫</p> <p>○ノート観察 (授業中での解法や考え方)</p> <p>○問題集、宿題への取り組み方、工夫</p> <p>○定期テスト</p> <p>○小テスト</p> <p>○振り返りカード</p>